

茨城県金融広報委員会

茨城県立大子清流高等学校

実 施 報 告

「金融教育公開授業・講演会（大子清流高等学校）」（12月16日開催）

【学校の特徴や概要】

茨城県立大子清流高等学校は茨城県立大子第一高等学校と茨城県立大子第二高等学校の統合により、平成16年に開校した県立高校です。学校は豊かな自然に囲まれており、四季の変化を視覚や肌で感じることができ、静かで落ち着いた学習環境の学校です。

現在は、地域の特色を生かし、自然を教材にした授業を行う「農林科学科」1クラス、多様な進路希望に対応する「総合学科」2クラスの1学年3クラスで構成されており、生徒数は全学年で160名の小規模な学校です。部活動は運動部9つ・文化部（同好会含む）7つの計16部が活動しています。近年ではウエイトリフティング部が関東大会や全国大会に出場しました。

【金融教育公開授業・講演会】（12月16日開催）

12月16日（木）に金融教育公開授業・講演会を開催し、研究校として2年間（令和2・3年度）金融教育に取り組んできた総仕上げとして、2・3年生の公開授業で発表しました。本来であれば、広く参加者を募り開催をするところでしたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、最小限の人数で開催いたしました。地歴・公民科、家庭科、福祉科、商業科の代表1名ずつが行った公開授業は、各教科の特徴を生かしながら、様々な角度から金融教育を行っている実践事例の報告授業となりました。また、茨城県金融広報委員会金融広報アドバイザーの山下朗裕氏による「人生の4つのキーワードって何？」と題する講演会も行いました。山下氏の希望としては生徒の反応を直接見ながら話をしたいとのことでしたが、こちらも新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、オンライン形式で行い、生徒は各教室での受講となりました。

<参加者>

生徒：160名、開催校教員：30名、教育委員会：1名、
町内中学校教員：3名、他校教員：5名、
茨城県金融広報委員会事務局：2名、金融広報アドバイザー：3名

1. 公開授業

(1) 「若者も狙われる悪質商法」と題して、悪質商法を回避するための方法について考える家庭科の授業が行われました。

班ごとに違う事例をロールプレイし、主人公（被害者）を同世代に設定することで、身近に起こる問題として演出することができ、悪質商法の手口や予防策について考えることができました。



(2) 「ふつうの・暮らし・しあわせ～みらいのために～」と題して、公的年金の種類や受給資格、老後を見据えた公的年金について考える福祉科の授業が行われました。

クイズを解きながら高齢者になったらどのように生活していけばよいか、年金の保険料を払わないとどうなるかなど、公的年金の必要性や老後を見据えた公的年金について現実問題として理解することができました。



(3) 「資産運用」と題して、資産運用の方法と今後の将来設計について考える公民科の授業が行われました。

資産運用ゲームを活用し、イベント（火災等の不確定要素）が起こった際の資産の変動を記録、計算したことにより、運用方法ごとのメリット・デメリットを理解することができました。



(4) 「人生初の大きな買い物」と題して、自動車を購入する際の代金の支払い方法について考える商業科の授業が行われました。

シミュレーションシートに収入や生活費を入力し、各支払方法（現金一括、ローン、残価設定型ローン）のメリット・デメリットを理解し、収支のバランスと自分のライフスタイルに合った支払方法について考えることができました。



2. 金融教育講演会

金融広報アドバイザーの山下朗裕氏から、「人生の4つのキーワードって何？」と題する講演が行われました。

最近話題になる数字（100年、18歳、約2人に一人）と最近目にする言葉（SDGs、DX、暗号資産）とのスライドを皮切りに、「人生の4つのキーワード（お金、健康、家族・友だち<人間関係>、やりがい<目標>）」について、1つずつ具体的に説明していただきました。「人生100年を豊かに、幸せに生活をするためには、この4つのキーワードが大きく関わる」ことを強く発信していただきました。現在、人間関係（友人関係）に悩みを抱えている生徒も多く、真剣に聞いている様子が覗えました。また、「18歳になったらできることは何か」というクイズを「○・×」で答えさせるなど、ただ聴かせるだけで

はなく、生徒に考えさせ表現させることで、印象深い講演会となりました。

生徒からは、「1つ1つ具体的な説明があったため想像しやすかった。」や「講演で言われた先に貯蓄する額を引き、残りを支出に充てることを実行しようと思った。」などの感想が聞かれました。



3. 研究協議

(1) 本校の金融教育について

金融教育研究校の委嘱を受けて、研究テーマを「経済社会の諸問題に関心を持ち、よりよい生活を送るために」としました。担当される先生方が力まないように、また一部の生徒が負担を感じないように「通常の授業の中で少しだけ金融教育という視点を入れて実施していただきたい」とのお願いをしました。

金融広報中央委員会発行の「学校における金融教育の年齢層別目標」の中で担当教科について触れられていますが、触れられていない項目について、どの教科や校務分掌が担当するか検討を行いました。また、各授業にて示されている年齢層別目標には概ね触れることはできましたが、内容を理解しているかは事後アンケートにより判断をしたいと思います。

さらに、全生徒に知ってもらいたい項目については、学年や全校単位で講演会等の計画を立てましたが、新型コロナウイルス感染症の感染状況から講演会等の行事は実施方法を一部変更しました。その為、日々の通常授業においてより金融教育という視点を明確にして、各教科で授業を実施しました。

課題としては、2年次から農林科学科はコース別、総合学科は系列別

の授業となるので、生徒により参加する授業が大きく異なるため、全生徒が金融教育を受けれるようにするための調整に苦慮したことがあげられます。

(2) 本日の公開授業について（授業担当者より）

① 家庭科（家庭基礎）：石川 睦子 講師

経済生活の単元では成年年齢 18 歳を導入とし、日常生活の様々な消費行動が契約であること、ひと月単位の短期的な家計マネジメント、生涯を見通した長期的なマネープラン、リスク管理などを学び、公開授業に合わせて「悪質商法のロールプレイング」を行う計画を立てました。電子黒板に写す画像や、小道具、劇の演出など、それぞれの班に工夫がみられました。また、聴衆側の生徒も評価表を記入しながらしっかり演者に注目し、ロールプレイを通して悪質商法が自分事である意識を相互に高めることができました。「もっと面白いものを作りたかった」とふりかえる生徒もいて、十分な準備時間を用意することができなかったことが課題です。

今後とも意思決定の重要性を理解し、責任ある消費行動を実践する力を育む授業をしていきたいと思います。

② 福祉科（社会福祉基礎）：渡邊 絵美子 教諭

福祉系列の3年次は2名で、2名とも社会福祉施設への就職が決まっています。介護職として、社会保障制度や公的年金に関する正しい知識は必須です。介護サービス利用へ適切なアドバイスをするためにも、将来の自分のためにも大切な知識であることを理解してもらえような授業を考えました。公開授業では、生徒の学力差や内容の難しさに配慮し、ゲーム形式で番号札を使うなどの工夫をしました。生徒は、教師の質問に対して根拠に基づいて考え、自分の意見を発表するなど、主体的に楽しく学ぶことができたのではないかと思います。

③ 地歴・公民科（政治・経済）：岡崎 翔太 教諭

ゲームを通して体験的に理解を深めさせることができました。資産運

用についての関心を高め、世の中の動きとお金の動きが関係しているということを実感させることができました。教材選定に当たって、銀行が作成している教材を利用したため、授業ではやや銀行に寄っている内容がありました。既存の教材を使う場合、公平性を保つため、足りない情報を適宜付け足すなど、自分の授業に落とし込むための確認をすることが大事だと思いました。また、生徒の振り返りの時間をもっとゆっくり取ればよかったと思います。タイムマネジメントが重要と感じました。

④ 商業科（ビジネス基礎）：平野 幸秀 教諭

人生最初に来る大きな買い物として、「自動車の購入」を題材としました。しかし、内容を盛り込み過ぎてしまったことと、生活費の入力作業で思いのほか時間がかかってしまったため、発表まで行うことができませんでした。どの支払方法（現金一括・銀行系ローン・ディーラーローン・残価設定型ローン）を選択するのが正しいのか、正解はありませんが、自分のライフスタイルに合わせて、各支払方法のメリット・デメリットを理解して無理のない方法を選択し、その選択の理由を述べられれば、それが正解であると思います。

（3）講評等

金融広報アドバイザーからは、各授業の感想や金融機関の平等な提示が必要であるとのこと指摘をいただきました。金融機関は金融取引についての業務を行う組織のことであるので、銀行だけではなくいろいろな組織で扱っている内容に触れることが大切であるとのことでした。

参加された他校の先生方からは、「実際に近い事例の提示と意思決定をする際の根拠の大切さに触れられていて興味深い授業であった」、「生徒の実態を加味した授業であった」等の感想をいただきました。

高校教育課石塚幸子指導主事からは、学校のグランドデザインの実現を果たすためには、めざす生徒像に近づく・近づけるためには日常的な授業で何をどう学ばせるかが非常に大切であるとお話いただきました。また、実施したアンケートの比較（他校や全国の生徒・事前事後）をすることも

重要であるとの助言もいただきました。

4. プログラム

13：20～14：10 公開授業（5校時）

家庭科 家庭基礎（2iA教室）

「若者も狙われる悪質商法」

福祉科 社会福祉基礎（103教室）

「ふつうの・くらし・しあわせ

～みらいのために～」

地歴・公民科 政治・経済（102教室）

「資産運用」

商業科 ビジネス基礎（CAI教室）

「人生初の大きな買い物」

14：10～15：10 金融教育講演会

（開会挨拶）

大子清流高等学校 校長 今瀬 一博

茨城県金融広報委員会 副会長 上野 淳 氏

演 題 「人生の4つのキーワードって何？」

講 師 金融広報アドバイザー 山下 朗裕 氏

15：20～16：00 研究協議

（1）学校長挨拶

今瀬 一博 校長

（2）本校の金融教育について

金融教育担当

平野 幸秀 教諭

（3）本日の公開授業について

各担当教諭

（4）金融教育講演会について

金融広報アドバイザー

山下 朗裕 氏

（5）質疑応答

（6）指導講評

茨城県教育庁学校教育部 高校教育課

石塚 幸子 指導主事

以 上